



生徒指導だより

令和6年10月8日号
岐阜北高等学校生徒指導部

1. 服装の役割を考える

9月30日(月)から後期が始まりました。本年度後半の始まりで、「これから頑張ろう」という意識を高めるよい機会でもあります。この機会に合わせて、「**制服を選択して着用する期間**」になります。全校で服装を整え、統一感を重視することで、礼節やマナー意識を見直し、気持ちを引き締め直す。そして、北高生としてのアイデンティティを再確認しようと考えられています。しかし、**残念ながら制服着用**の目的にそぐわない服装をしている生徒の数が少なくない。自主自律というより、思わぬまま、テキトーが許されるという雰囲気が生まれている気がしています。

♡ 制服の目的 ♡

- ・北高生としての帰属意識の醸成
- ・身だしなみ、マナー意識の涵養
- ・北高生だと判別しやすいことによる防犯効果

Kashiwa 令和6年9月25日

◎生徒に下記を連絡し、周知をお願いします。

9月30日～11月は「制服」期間です。

9月30日から「制服」がスタートします。これは「制服の目的」を第一に意識する期間として9月30日～11月は「制服」期間とさせていただきます。

制服の目的
北高生としての帰属意識の醸成
身だしなみ、マナー意識の涵養
北高生だと判別しやすいことによる防犯効果

＜制服の選択＞
●制服、2種類の服装からいずれかを選択。
●制服としてあれば、季節・状況に応じて着用可能な範囲内での生徒において、自身の体調等に合わせ、着用すること。

1型 2型 3型 4型 5型 6型 (6型は制服指定)

●女子校時の防寒着の着用やジャケットの下にカーディガン・セーター等を着ることは自由ですが、**校則ではとれない服装を着ることはできません。**

QRコード: 制服検討会

戦略的なイメージ発信を**個人レベル**でおこなうのが“パーソナル・アイデンティティ”、**学校レベル**でおこなうのが“スクール・アイデンティティ”です。この期間に再確認したいことは、服を趣味や自己完結で着る“パーソナル・アイデンティティ”ではなく、社会的立場との整合性、そしてTPOとの整合性を持った“スクール・アイデンティティ”。これは、『北高生』としてのプライド＝北高のイメージを相手に的確に伝える本来の着こなしです。

私は「好きな服を好きに着るオシャレと制服は同一ではない」という考えです。あなたたちの中に「人を外見で判断してはいけない」、あるいは「能力があれば、外見なんて関係ない」と思っている人もいるでしょう。でも、ちょっと考えてみてください、もしも外見も能力だとしたら?

約6秒で決まると言われている第一印象、「人は見かけが9割」、「人は第一印象が大切」という言葉をこれまで聞いたことがあるのではないのでしょうか。この説は「メラビアン法則」が元になっています。メラビアンの法則とは、コミュニケーションにおける言語・聴覚・視覚の影響の割合を明らかにした心理学上の法則のことで、その決定因子の多くは外見的要因である視覚情報の影響を受けると言っています。この法則に則って考えると、外見も「コミュニケーション能力」という能力のひとつで、視覚情報である制服もコミュニケーションツールです。

2. 先輩たちが議論に議論を重ね、辿り着いた結論が“選択制”

※制服等検討委員会 HP <<資料・議事録すべて見られます>> <https://gifukitawa-kingu.jimdo.com>



コロナによって起きた急速な社会変化・意識変化の中で校則や学校のあり方を問い直す契機にして、制服の見直しを起点に“令和の校則”として再構築したのが現行の生徒心得です。多くの労力と長い時間をかけ、「**制服を基本としつつ、季節や状況に応じて選択制を導入する**」という結論ができました。「詰襟型」と「ジャケット型」の選択制、「ジャケット型」に関しては「スカート」と「スラックス」の選択制、「ベスト」や「ポロシャツ」も制服として採用し、制服にも任意で着られる選択肢を広げ、「**靴下や靴、ストッキング、制服の下に着るものや、制服の上に羽織るものは制服とみなさず、生徒心得で細かく色などを規制しない。生徒がTPOを自ら考え、制服とともに品性を保って着こなす**」ことになりました。

制服等に関する検討委員会が「高い志とグローバルな視野を持って学ぶ岐阜北高生が、自覚と誇りを持って着ることができ、制服及び服装規定の在り方について〈着申〉」を学校長に提出しました。

北高スクールポリシー
本校の教育実践の根幹となる

本校の教育実践の根幹となる

1. 教育実践の根幹となる

2. 教育実践の根幹となる

3. 教育実践の根幹となる

4. 教育実践の根幹となる

5. 教育実践の根幹となる

6. 教育実践の根幹となる

7. 教育実践の根幹となる

8. 教育実践の根幹となる

9. 教育実践の根幹となる

10. 教育実践の根幹となる

本校の最上位目標である「教育目標」や「スクール・ポリシー」には、“管理と統制”を表すような文言は記されていません。選択制や細かにルールを設けず、自分で考える、判断するとなったのは、**先輩たちの譲れない熱き想いの結果**です。当時の議論や変遷を知らない流れの中で、この見直しの意義が風化していくことに私は危機感を抱いています。

単なる“流行り”としての選択制ではなく、その熱量を太い縦の糸として継承していくこと、その意味を考え、常に状況を細かく把握しながら横糸として丁寧に紡ぎ続けていくこと、これが在校生のみなさんに課せられたミッションです。服装から髪型、校外行動まですべて生徒心得(校則)で事細かに決めて、すべてそれらに従いなさいという学校環境は北高には望ましくないと私は思っています。

なぜ見直し起きたのか、それがどのような影響を及ぼしたか、今後どうすべきか、過去・現在・未来を相互に関連づけながら今後も時代や価値観の変化に応じて柔軟な対応や運用、臨機応変な見直しを継続的に進めていくことがとても重要だと私は考えています。

あなたは どう 思いますか?